

Passport

2020 AUTUMN Vol.44

男らしさ、女らしさにとらわれず、自分らしく暮らせる社会。お互いに認め合い、個性と能力を發揮できる佐賀市の実現をめざしましょう。



市民意識調査の結果が出ました!



大盛況! ワークライフバランス講座



LGBTs 成人式



SDGsについてもっと知ろう!

CONTENTS

- ・令和元年度男女共同参画市民意識調査の結果が出ました P 1~2
- ・ワーク・ライフ・バランス講座を開催 P 3
- ・LGBTs 成人式 P 4
- ・協賛事業所大特集 P 5~6
- ・SDGs (ジェンダー平等) P 7

男女共同参画に関する市民意識調査の結果を報告します

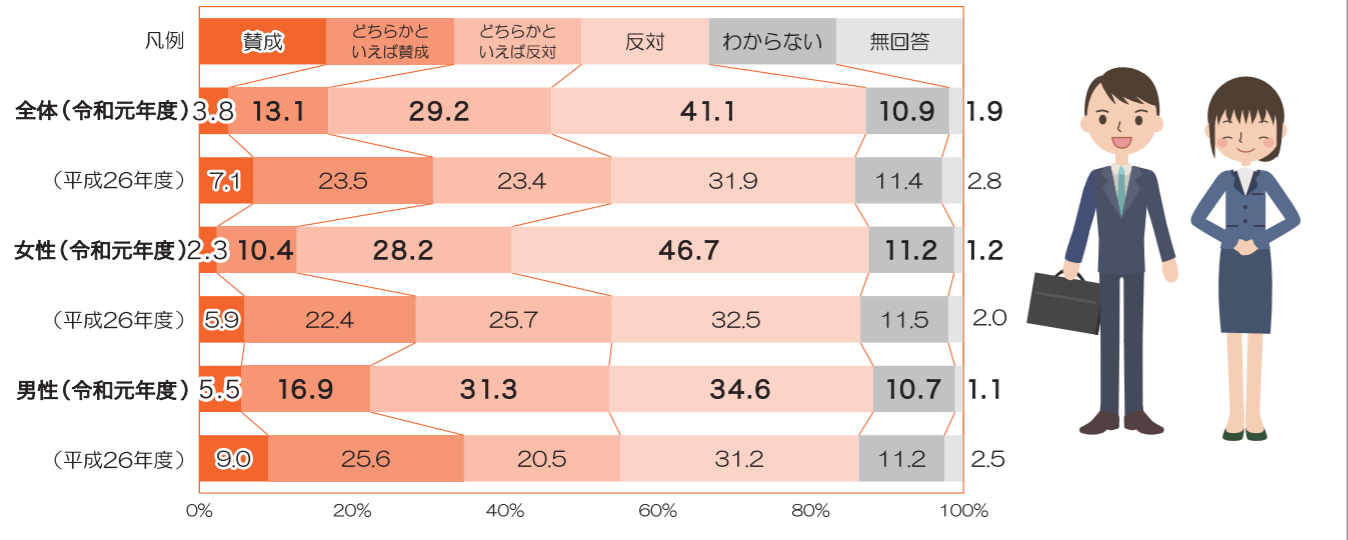


佐賀市では、「男だから」「女だから」という意識にとらわれず、一人ひとりの個性を大切に、誰もが「自分らしく」生きることができる社会をめざしています。男女共同参画社会づくりに関する実態を把握するため、市民意識調査を実施しましたので、その主な結果をお知らせします。

●市民意識調査の概要（5年ごとに実施）
 ■調査対象 16歳以上の市民 2,300人（無作為抽出）
 ■調査期間 令和元年7月11日（木）～8月5日（月）
 ■調査方法 郵送による配布、回収
 ■回答数 626人

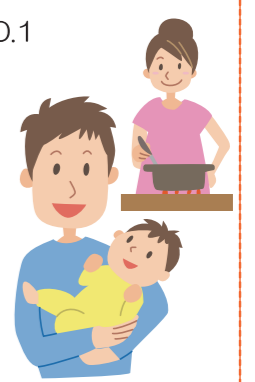
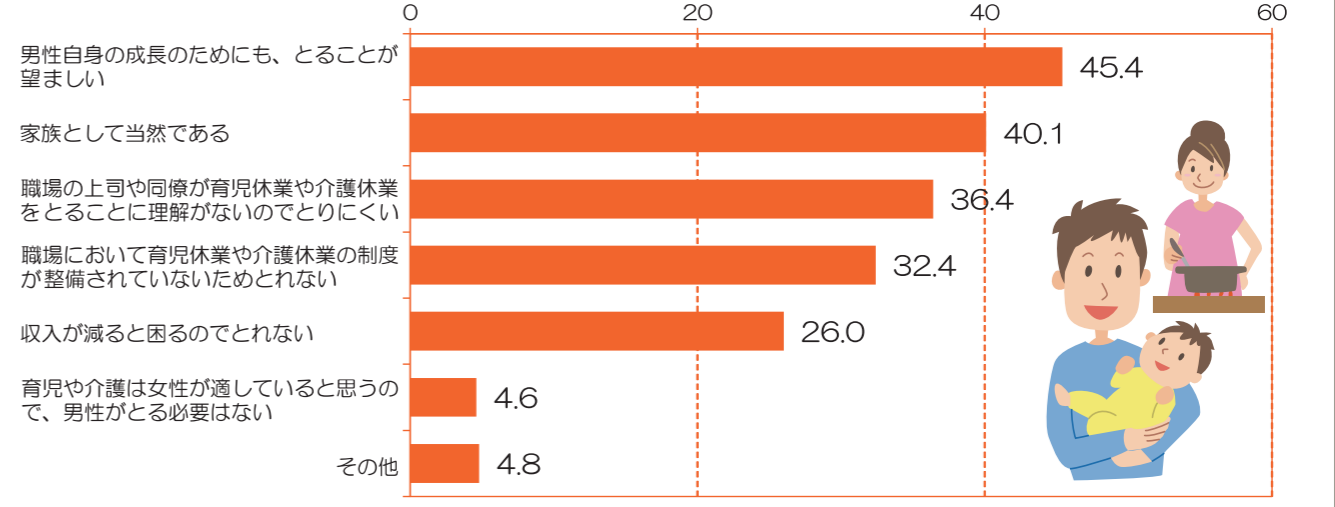
夫は外で働き、妻は家庭を守るべきについての意識

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考えについての反対派は全体で7割を占め、男女とも前回より反対派が大きく増加している。



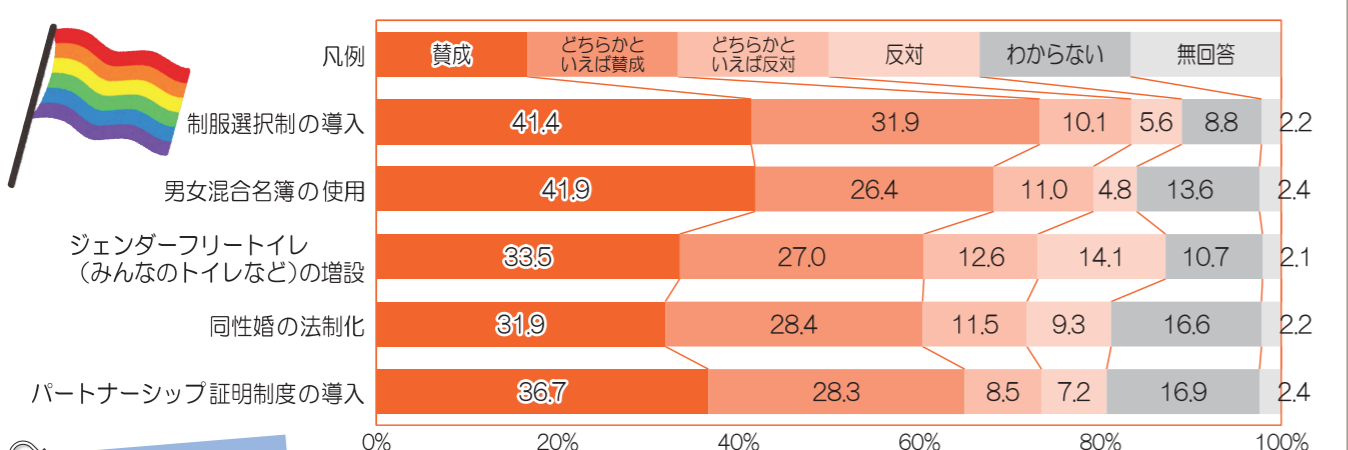
男性の「育児休業」や「介護休業」取得に関する意識

男性の育児・介護休業は「男性の成長のためにも、とることが望ましい」が第1位。



LGBT（性的少数者）に関する取り組みについての意識

LGBT関連の取り組みについては、いずれも「賛成派」が過半数を占める。

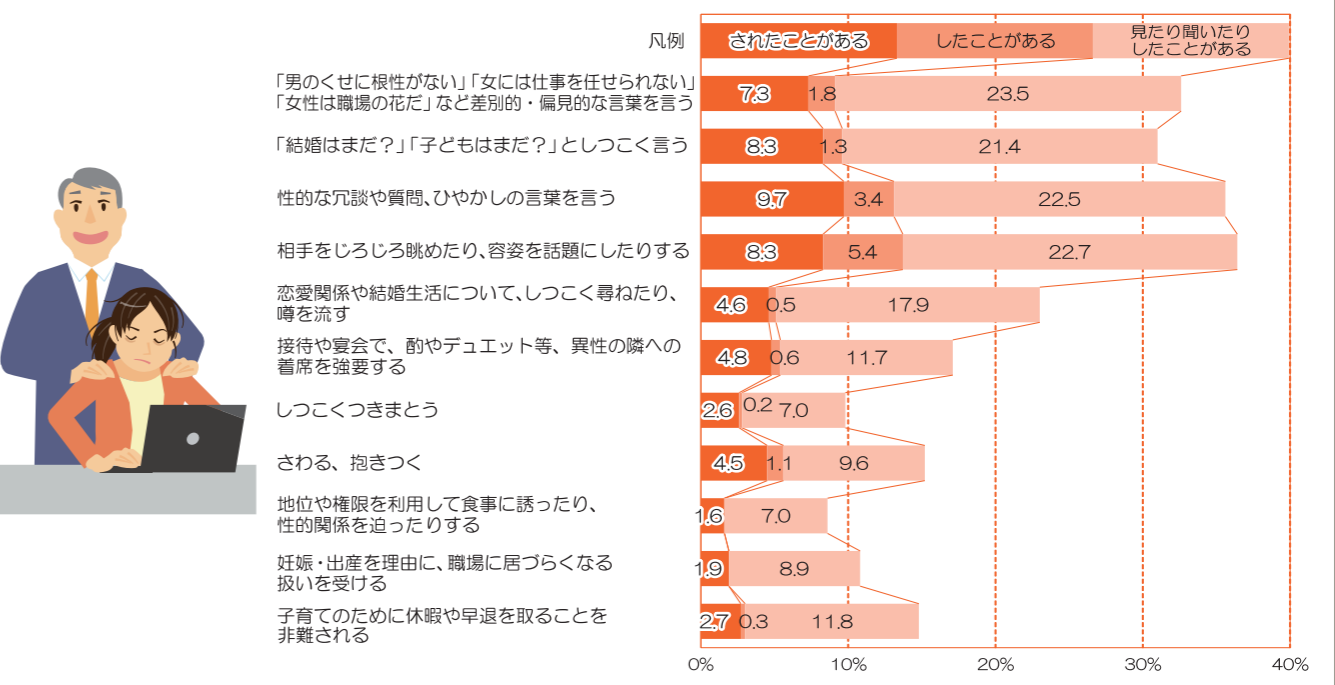


LGBTとは…

「L」レズビアン 「G」ゲイ 「B」バイセクシュアル 「T」トランスジェンダー（生まれた時の性にとらわれない生き方をする人）の4つの頭文字。心の性別や、好きになる相手の性別において、「性的少数者」とも称される。

セクハラやマタハラの被害・加害状況

セクハラやマタハラを「されたことがある」の最多は「性的な冗談や質問、ひやかしの言葉を言う」、
 「したことがある」の最多は「相手をじろじろ眺めたり、容姿を話題にしたりする」。



令和元年度 ワーク・ライフ・バランス推進のための公開研修会
「新しい時代を生き抜く働き方」

開催日 令和2年2月5日(火)
 会場 アバンセ研修室
 参加者 94人

コロナウイルス感染症の流行で、「働き方改革」は、私たちにとってより身近にというより必須になりました。「3割のワーク（仕事）に集中し7割のライフ（人生）を充実して過ごす社員が多ければ多いほど、企業は成長していく」と今回の講師・立命館アジア太平洋大学（APU）学長の出口治明さんは、著書「知的生産術」で語られています。時代が求める新しい働き方について、出口さんにお話ししていただきました。



でぐち はるあき
【講師】 出口 治明 さん

（立命館アジア太平洋大学学長）

1948年、三重県生まれ。京都大学法学部卒。1972年、日本生命に入社。ロンドン現地法人社長、国際業部長などを歴任。2008年にライフネット生命を開業。2018年より現職。旅と読書が好きで、訪れた世界の都市は1000以上、読んだ本は1万冊に上る。

出口学長は、初めに、「生きること・働くことは、この世界をどう理解し、どこを変えたいと思ひ、自分はどの部分を担うかを定めることだ。そのために必要なことは、森の姿（世の中）を素直に見ること。素直に見るための思考は『タテ・ヨコ思考』と『数字・ファクト・ロジックのみで考えること』である」と語られました。新しい産業を生み出すキーワードは「女性・ダイバーシティ・高学歴（学び続ける）」とも。

また、「働き方」と「生き方」については、「日本が成長するためには、『ものづくりの国』というイメージと明治期に取り入れられた「男は仕事、女は家庭」という意識による「メシ・フロ・ネル」から脱却して、多様な価値観に触れて創造性を高めるための「人・本・旅で学ぶ」へ切り替える必要がある。人間の集中力は2時間、仕事はどうでもいいことだと割り切れれば、思い切って仕事ができる。残った時間を「人・本・旅」での学びにいかす。ワーク・ライフ・バランスは自分で考えて決めることができる。」と語られました。



第2部では、ヤマトマネージメントサービス佐賀 BPD センター・九州電力佐賀支社・佐賀広告センターによる事例発表が行われました。権限の委譲や、自ら考え決定する等、従来のトップダウンではない働き方の報告があり、参加された企業の皆さんの参考になったのではないのでしょうか。

（取材を終えて）「女性、ダイバーシティ、高学歴（学び続ける）」の3つの言葉が心に残った講演でした。それは、豊かな生き方や社会の成長を生み出す希望だと思えたからです。 【編集委員：矢ヶ部 ひとみ】

働き方改革の羅針盤
 ~働きやすい職場をめざして~

誰もがより働きやすい職場を実現するための「羅針盤」となるような、読めば業務改善の方向性が分かる構成になっています。

自社の課題を洗い出してみましょう。

- 仕事人が人についていませんか？
- 非効率的な仕事はありませんか？
- 働きやすい職場環境になっていますか？
- 職場内の相互理解や従業員の育成・スキルアップは進んでいますか？

自社の状況をチェックして進むべき方向を定め、具体的なヒントを手に入れましょう。変化の時代の荒波を乗り越えて、働きやすい職場をめざしましょう。（冊子は人権・同和政策・男女参画課で配布しています）

「第3回佐賀LGBTs成人式」

～なりたい人になる成人式～

開催日 令和2年2月24日(月・祝)
 会場 ザ・ゼニス(ZENITH)

令和2年2月24日、性的少数者の居場所づくりに取り組む地元の団体「S O i G I E s(そいぎーず)」が主催の第3回佐賀LGBTs成人式が、初めてブライダル会場で開催されました。ザ・ゼニス支配人からブライダル業界ではLGBTsについての知識がまだ十分ではなく、もっと知識や経験を増やしたいという理由で会場を提供されたことを聞いてとても感動しました。また、ヘアメイクや着付けの方々をはじめ、地元テレビ局のアナウンサーもボランティアで参加されたり、協賛企業の協力があったり、人権課題が社会全体で取り込まれ、前に進んでいることを実感しました。

会場入口には「なりたい人になる成人式」という案内板があり、性的少数者の方々は地域の成人式にも自分の思いのままの姿で出席できずに、様々な場面で生きづらさを感じながら暮らしていることを改めて感じました。



式はオープニングムービーで始まり、次のファッションショーでは、自認する性別の正装をした参加者がランウェイで和服姿を披露したり、男性カップルがパートナーと結婚指輪を交換しミニ結婚式を挙げたりし、とても嬉しそうな表情で参加者から大きな祝福を受けている姿が印象的でした。



生きづらさについて以下の話がありました。

- ◆ 3～4歳頃から自分の性自認について違和感を持ち、親にも言えなくて悩み続けていたこと。
- ◆ たまたま見ていたテレビのLGBTsについての番組でやっと正しく理解することができた。心の中のモヤモヤがなくなり、少し気が楽になったこと。
- ◆ 幼い時に家庭や学校で気軽に相談することができ、ありのままの自分を受け入れてもらっていたら、もっと早く安心することができたこと。
- ◆ 自認する性のままで振袖を着て地元の成人式に出席したかったが、親に理解してもらえず欠席したこと。
- ◆ 同性カップルからは、パートナーシップ条例を施行する自治体も出てきて以前より暮らしやすくなってきたが、同性婚は認められていないこと。

性的少数者についての人権課題は啓発がなされてきて人々の理解が少しずつ進んできていますが、地域社会の中でまだまだ生きづらさを感じながら生活していることが分かります。

今回の成人式は性的少数者の方々が安心して集まることができる場ですが、「このような会を特別に開催する必要がなくなり、多様性を認める社会になることを目標に活動しています。」という主催者からのメッセージが心に響きました。どなたでも気軽に参加できる雰囲気ですので、この人権課題の啓発がさらに大きく前進するためにも多くの市民の方々が参加され、支援者（アライ）の輪が広がればよいと思います。

【編集委員：椛島 陽一郎】

佐賀市男女共同参画推進協賛事業所紹介

市とともに男女共同参画の推進に積極的に取り組んでいただいている協賛事業所を紹介します。(五十音順)

木村情報技術株式会社

(卸本町)
情報サービス業



当社はAI事業やWeb講演会ライブ配信事業を行っているIT企業です。「えるぼし」の最高位認定や「くるみんマーク」の認定も受けています。子どもの急病等で休まなければならない日には、通常の有給休暇とは別に特別休暇を設けるなど、新しい福利厚生が生まれています。今後も男女に関係なく働きやすい職場環境を整備していきます。

地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館

(嘉瀬) 医療業



好生館では、全職員のうち73.7%が女性、平均年齢37.2歳で子育て世代が多く勤務しています。病院は医師・看護師をはじめ交代制勤務の職員が多いので、子育てや介護と仕事が両立出来るよう支援制度充実に注力しています。今年度は、複数の男性職員が育児休業を取得しました。今後もワーク・ライフ・バランスを支援し男女共に働きやすい職場をめざします。

社会福祉法人 佐賀市 社会福祉協議会

(兵庫北)
社会保険・社会福祉・介護事業



当会は、誰もが安心して暮らすことのできる地域をめざし活動しています。職場内では働きやすい環境づくりに努め、人事管理での配慮を行い、女性の能力活用について取り組んでいます。また、次世代育成支援計画を策定し、家庭生活や地域活動がしやすい環境の整備を整え、仕事と家庭の両立支援も行っています。

株式会社 佐賀新聞社

(天神)
新聞業



1884年(明治17年)創刊の新聞社です。「ひと・地域とともに~今を見つめ、未来を拓く」を活動使命として、130年以上にわたって正確できめ細やかな情報を提供し続けてきました。近年は多くの女性記者も活躍。育児時短勤務の利用も進むなど、男女がともに働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

佐賀整肢学園 こども発達医療センター

(金立)
医療・福祉業



職員がイキイキと活躍するためには場面に応じたサポートが必要と考えております。業務では教育委員や業務改善等働きやすい制度を多数実施し、プライベートやライフスタイルに対しては、有給休暇の計画的な取得や託児所・学童保育の整備、育児・介護休業制度の充実などを実施してきました。これからも時代に合わせた制度整備をしていきます。

国立大学法人 佐賀大学

(本庄)
学校教育業



地域における教育・研究の中核を担う佐賀大学では、「教職員が“やりがい”をもって働くことのできる大学の実現」を掲げています。平成29年に設置されたダイバーシティ推進室では、両立支援制度の充実や、女性の活躍推進に積極的に取り組んでいます。詳しくは「佐賀大学ダイバーシティ推進室」のHPをご覧ください。

佐賀東信用組合

(神野東)
協同組織金融業



佐賀東信用組合は「相互扶助」を理念とする協同組合組織の金融機関です。お客様である組合員の利益を第一に考え、地域や組合員の発展に貢献できるよう役職員一同「地域密着」で頑張っています。また、質の高いサービスを提供できるよう社員の仕事と家庭の両立を応援すべく、働きやすい職場環境づくりにも取り組んでいます。

株式会社 戸上 コントロール

(久保泉)
電気機器製造業



平成30年2月に大財から久保泉地区へ工場を移転し、電気機器や電子機器の製造を行っています。働き方改革による計画年休の推進や産休、育児の取得、病気等による休暇を取りやすい職場環境づくりに努めています。従業員のワーク・ライフ・バランスをこれからも支援していきたいと思っています。

マルゼン ユニフォームセンター

(本庄)
織物・衣服・身の回り品小売業



当社は、女性向けの事務服、白衣を販売しています。働く女性のユニフォームで現場の皆さんを応援しています。社内では、女性スタッフが子育てに大事な学校行事、お子さんの病気などでは気兼ねなく休日が取れるようにしています。又、計画年休での年次有給休暇の取得促進も制度化しています。

社会福祉法人 聖母の騎士会

(大和)
福祉業



当法人は、介護・保育・医療等多様な福祉サービスを10事業所で提供しています。職員の仕事と家庭生活の両立ができるよう、行動計画に基づいて安心して育児・介護休暇や有給休暇を取得できるよう支援しています。働きやすい環境、職員一人一人の能力が十分に発揮できるような職場づくりを今後もめざしていきます。

株式会社 中野建設

(水ヶ江)
建設業・総合工事業



当社は創業102周年を迎えた総合建設業として、地域の皆様とともに歩んでおります。産休育休取得社員が復職した際のスムーズな業務サポート体制や年次有給休暇の取得推進等、社員のワーク・ライフ・バランスの積極的な取り組みを行っています。

男女共同参画推進協賛事業所募集中!

事業所での男女共同参画の推進は、子育て環境の整備や仕事と家庭生活の両立支援など、事業所のイメージアップに繋がります。協賛事業所への登録をお待ちしています!

担当: 佐賀市人権・同和政策・男女参画課

男女共同参画室

電話: 0952-40-7014

FAX: 0952-34-4549

申込用紙は佐賀市ホームページからダウンロードできます。

詳しくは 佐賀市HPをご覧ください。

<https://www.city.saga.lg.jp/main/3196.html>



5 ジェンダー平等を実現しよう



ジェンダーの平等を達成し すべての女性と女の子の エンパワーメントを図る



SDGsの17の目標の中から『目標5 ジェンダー平等を実現しよう』について考えてみましょう。これは、女性が性を理由に差別されないようにし、社会的に男性と同等の力を持つための取組を意味しています。目標5の日本の達成度は、**100点満点の55点**と低く、**最大の課題**とされています。しかし、この問題については、まだまだ皆さんの関心が低いようです。

まずは、自分の意識を探るため、家庭生活におけるジェンダーチェックをしてみましょう。

【ジェンダーチェックテスト】※ジェンダーとは文化的、社会的につくられた性差や性別意識のこと。

No	チェック項目	はい	いいえ
1	男の子がままと遊びをしたり人形を欲しがると気になる		
2	男性はまだしも、女性がたばこを吸うのは許せない		
3	夫のことを「主人」と呼ぶのは普通である		
4	妻は夫をたてて控えめな方がよい		
5	結婚後にできる貯金は、夫の名義にする		
6	家事や育児や介護は女性の仕事である		
7	妻の仕事は、育児に支障をきたさない程度がよい		
8	妻が外出するときは家族に不便をかけないのは当たり前だ		
9	家事や育児や介護をする男性は、全力で仕事をしていないと思う		
10	父親が子どもの友達の名前を5人以上言えないのはしかたがない		
11	父親はいざという時にだけ、育児に参加すればいい		
12	子どものしつけで男女に差があるのは当然だ		
13	男の子、女の子で持ち物の色が決まっているのは気にならない		
14	学校で先生が男の子にリーダーを頼むのは、当然だと思う		
15	子どもの進路で、男の子だと親がよけいに気にするのは当然だ		

(出展:佐賀県高等学校教育研究会家庭部会編家庭科学習ノートファイルより)

「いいえ」の数でジェンダー度を確認しましょう！

【0～5個】まだまだです 【5～10個】若葉マークです 【11～15個】名人です

みなさん、「いいえ」はいくつありましたか？ 今まであまり気にせず、当たり前とっていたことがジェンダー平等ではなかったのか！と気づいたことがありましたか。ジェンダー平等を達成するために解決しなければならない課題とはどういうものかを知ること、そしてそれを伝えること、それに共感し、情報を伝播させていくことが重要です。

【編集委員：草場 栄美】

編集後記

コロナ禍の中で、新しい生活様式が叫ばれる昨今ですが、ライフ・ワーク・バランスを見直し、家事・育児など、家の中の男女共同参画も考えてみてはいかがでしょうか。

編集委員

梶 島 陽一郎 ・ 草 場 栄 美
松 永 光 子 ・ 矢ヶ部 ひとみ

※編集委員は、市民の方にご協力いただいております。

発行

「ぱすぽーと」に関する
ご意見・ご感想を
お寄せください。

【発行・お問い合わせ】

佐賀市人権・同和政策・男女参画課
(ほほえみ館2階)

TEL 0952-40-7014

FAX 0952-34-4549

URL <http://www.city.saga.lg.jp/> (佐賀市HP)

E-mail jinken@city.saga.lg.jp